

『ムーミン』の庭

さく 佐野 久子
おとぎのきのみ



クラスのグループは、ほんのひとにぎりの〈ヘトップ〉の子たちと、わたしみたいな〈その他おおぜい〉の子たちのふたつしかないんだって思う。

高木さんは、ちょっと前までは〈ヘトップ〉のはじっこにいた。どうでもいいようなことでハブされて、ユウコちゃんとマユちゃんに接近した。

ふたりはわたしと同じ〈その他おおぜい〉のグループで、小学校のときからの仲良しだった。

さすが〈ヘトップ〉にいた子だけに、高木さんは成績もよかったし、おしゃべりのセンスもばつぐん。

いっしょにしていると、〈ヘトップ〉の男の子たちが気軽く声をかけてくる。それにもマユちゃんたちは、ドキドキだったみたい。

あるとき、わたしは気がついた。

高木さんがいつもしている斜め編みブレスのミサンガとおなじものが、ユウコちゃんとマユちゃんの腕にもまかれていたことに。

「アイコに置いてあるよ。果歩ちゃんも買えば？」

アイコというのは、通学路の途中にあるファンシーグッズのお店のこと。友だち同士のプレゼントはたいていここで買う。

ミサンガに興味のないわたしは、マユちゃんのアドバイスをテキトウに聞き流していた。そのくせに三人の腕からのぞく仲良しの証しが、いやに気になってしかたなかった。きのうの朝、ユウコちゃんから

「新しいピアノのおひろめをやるの。果歩ちゃんもおいで